

## キンメダイ一本釣り漁業における食害による被害状況

近年、本県のキンメダイ漁業において、サメ類等による食害が問題になっています。食害という用語は、人間以外の生物による摂食行為により人間の取り分が減ってしまうという意味で使われていますが、キンメダイ漁業における食害は、漁業者の針にかかった獲物を船に引き揚げの途中に横取りしてしまう直接的なものです。キンメダイを横取りする食害生物は主にサメ類、イルカ類、バラムツといわれています。

食害の実態を知るために、平成28年7月から伊豆半島東海岸のキンメダイ漁船3隻(伊東1隻、稲取2隻)に、操業日毎のキンメダイ漁獲尾数、サメ類等による被害尾数、食害生物(サメ類、イルカ類、バラムツ)の遭遇状況等を記録してもらい調査を実施しました。今回、平成28年7月から平成29年6月までの1年間の記録を集計した結果について報告します。



写真 サメの被害にあったキンメダイ

今回記録をお願いした漁船が操業した漁場図を図1に示しました。伊東の漁船は全ての操業を矢筈出で、稲取の漁船はうどま合せと矢筈出で操業を行っていました。

3船が操業をした日数のうち、食害生物(サメ類、イルカ、バラムツ)にどのくらいの割合で遭遇しているのか、月別の遭遇率(遭遇日数/操業日数)を求め、推移を図2に示しました。

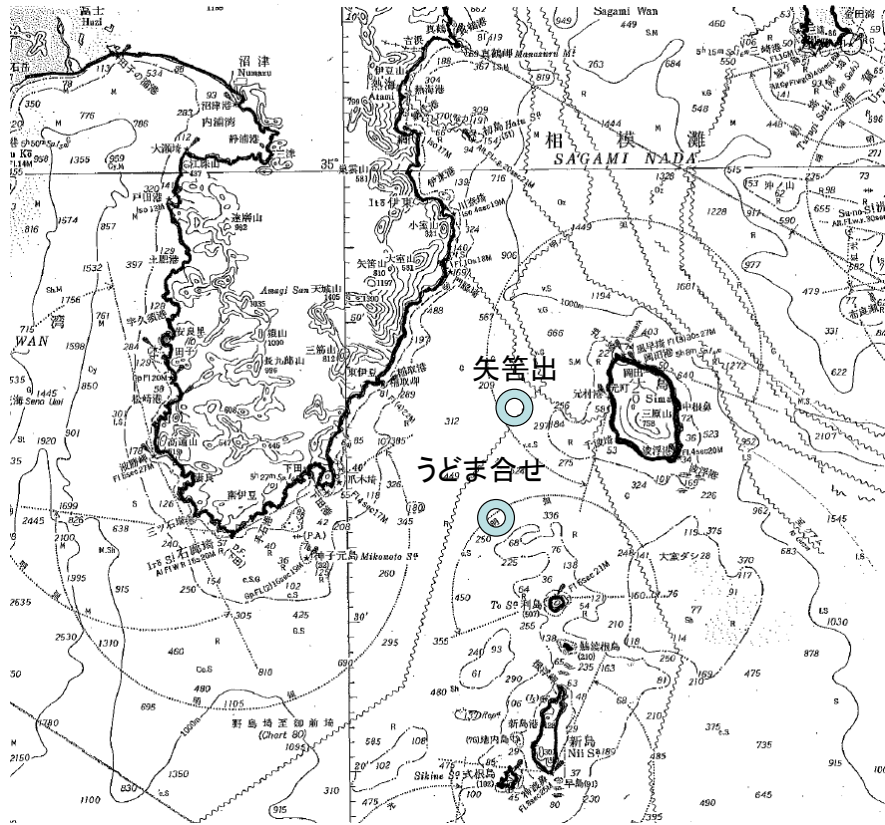


図1 キンメダイ漁場図

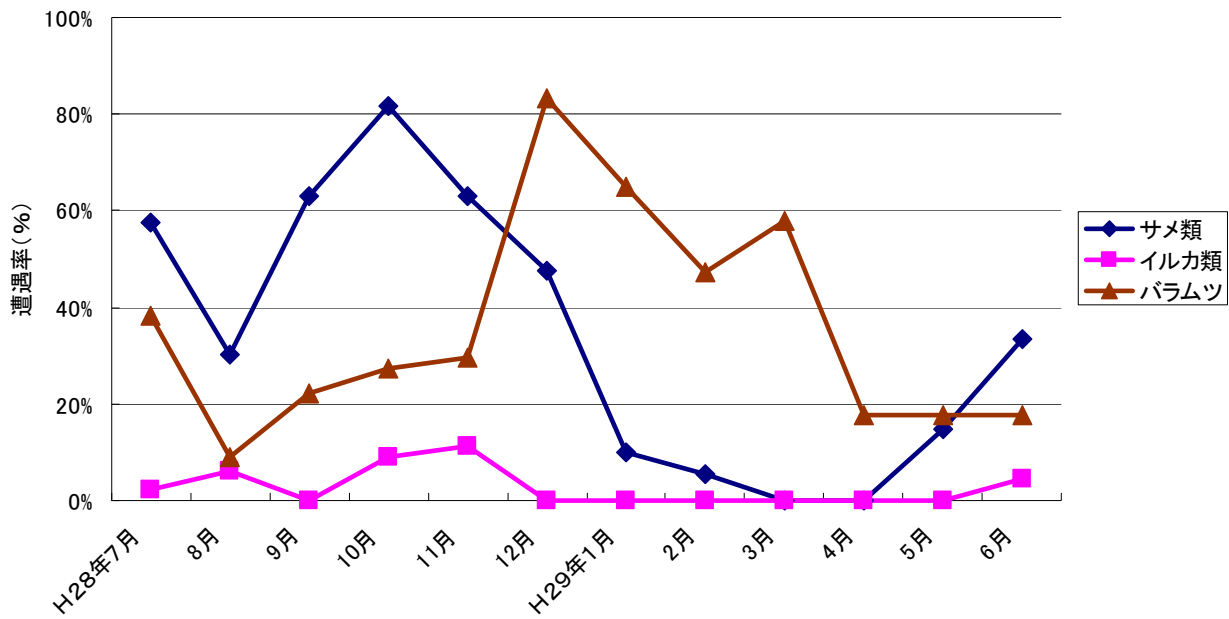


図2 食害生物遭遇率の月別推移

この図から7月と9～12月にかけてサメ類の遭遇率が高く、12～3月にかけてバラムツの遭遇率が高いことが分かりました。イルカは他の食害生物より遭遇率は低いですが10～11月には10%を超えました。

次に、調査を依頼した漁船1隻当たりの月別被害率(被害尾数/漁獲尾数)を図3に示しました。年間の平均被害率は7.5%でした。

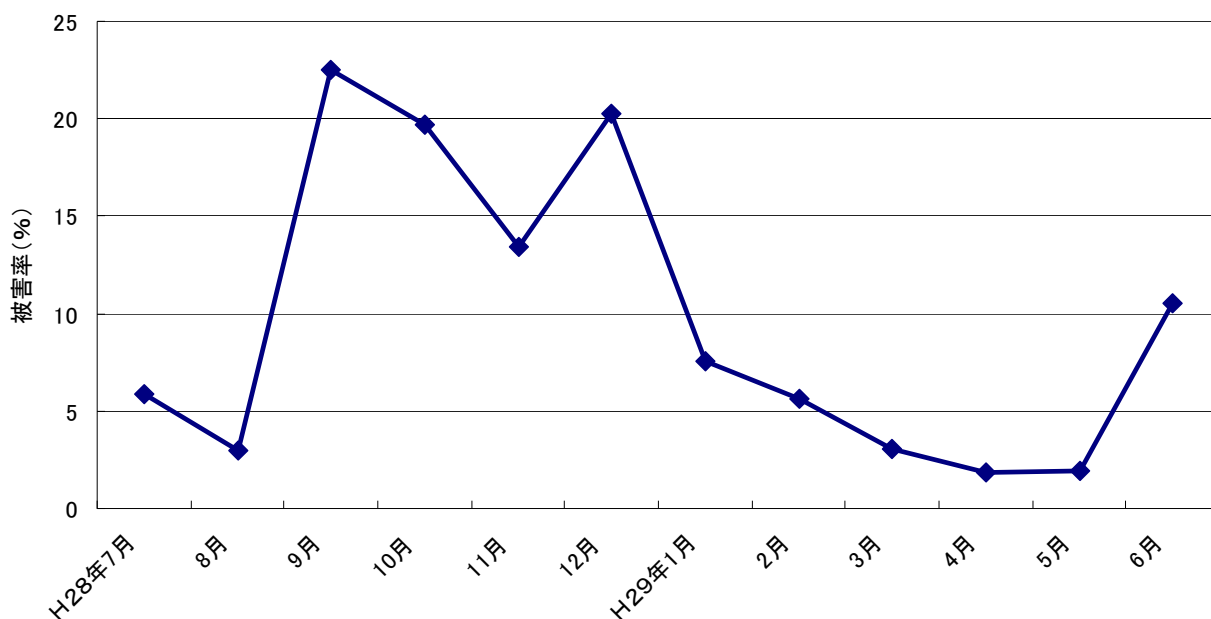


図3 被害率の月別の推移

被害率はサメ類の遭遇率が高かった9～12月に高い値を示しました。バラムツの遭遇率が高かった1～3月の被害率はあまり高くなっていません。これは、バラムツは海底で釣針にかかったキンメダイを1尾ずつ食べるのに対して、サメ類は漁具ごと啜って持ち去ってしまう行動をとるので、サメ類に遭遇すると1度に多くのキンメダイが失われるためであると考えられました。

表1に伊豆東岸のキンメダイ立縄漁業の水揚状況を示しました。このデータに今回求めた被害率を掛けて推定被害量を計算し表2に示しました。

表1 伊豆半島東岸のキンメダイ立縄漁業の水揚状況

	年	H28					H29						計	
		月	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4		5
水揚量(ト) <sup>1)</sup>	(A)	59	45	40	22	24	33	21	36	54	41	48	28	334
平均体重(kg)	(B)	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7	0.8	0.9	0.9	0.8	0.8	0.7	0.8
水揚尾数(千尾)	(C)=(A/B)	76	54	53	32	34	45	27	39	60	53	64	38	294
平均単価(千円/kg) <sup>2)</sup>		1.7	2.0	2.1	2.0	1.9	2.1	2.3	2.1	2.0	1.7	1.4	1.7	2.0

1) 伊東、稲取、下田(沿)各港の合計値 2) 伊東、下田(沿)両港で集計

表2 推定被害量

	年	H28					H29						計	
		月	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4		5
被害尾数(千尾) <sup>1)</sup>		4.5	1.6	12.0	6.3	4.5	9.2	2.0	2.2	1.8	1.0	1.2	4.0	42.3
被害重量(ト) <sup>2)</sup>		3.4	1.3	9.0	4.4	3.2	6.8	1.6	2.0	1.6	0.8	0.9	2.9	31.7
被害金額(百万円) <sup>3)</sup>		5.9	2.6	19.3	8.7	6.0	14.5	3.6	4.4	3.2	1.3	1.3	5.1	65.0

1) 水揚尾数×被害率 2) 被害尾数×平均体重 3) 被害重量×平均単価

伊豆半島東沿岸のキンメダイ漁業では食害によって1年間に尾数で42千尾、重量で31.7トン、金額で65百万円の損失が発生していたと推定されました。当調査は今後も継続して行っていきます。

(吉川康夫)